

2017年活動スローガン「ありがとう35周年 つながれ広がれエンゼルの愛」

報 告

〈バングラデシュ〉

●学校校舎建設

- ・7月31日、DCEFの学校校舎建設基金で建設された5教室の新校舎がカバシア郡アムライド村のファイズ・ウディン・ショルカ・ユニバーサル高校に完成しました。
- ・杉本和憲様よりカバシア郡の学校へ図書館建設費を寄付いただきました。



●トイレ寄付

- ・丸山慶様よりカバシア郡の学校へトイレ2基
- ・長町ゆかり様よりカバシア郡の学校へトイレ1基
- ・染屋光宏・夏子様よりカバシア郡の学校へトイレ1基
- ・会員有志の方よりカバシア郡の学校へトイレ2基

●その他の寄付

- ・会員有志の方よりカバシア郡の学校へ電動ウォーターポンプ1基
- ・会員有志の方よりカバシア郡の学校へ図書205冊

〈フィリピン〉

2017年7月～9月支援分

9/9～10にフィリピンのバギオ市で行われました北ルソン比日友交協会創立45周年記念及び北ルソン比日基金設立30周年記念式典に、当協会のボランティア並びにスタッフ計8名が出席しました。その際に奨学金基金として200万円を寄付しました。

また式典では、当協会のボランティアメンバーが主体となり行った着物ショーに感謝状をいただきました。

〈スリランカ〉

8月に「スリジナラタナ社会福祉協会」へ奨学金基金として同代表のニャーナーランカーラ氏を通じて20万円を寄付しました。

〈国内〉

九州北部豪雨災害義援金として募金いただきました3万円を日本赤十字社へ寄付

イベント情報

10/18 (水)

秋のチャリティバザー

場所: 本協会ボランティアセンター (伊丹市)
時間: 10:00～14:00



編集後記

私事です、この夏は流しそめんを三回楽しみました。一回は東条親子交流会で本格的な竹を割って行いましたが、後の二回は雨どいを買ってきて自宅の前で行いました。雨どいは竹と違ってホームセンターに行けば購入できます。また家の隅に立てかけておけばいつでも使えるので、街中でも気軽に本格的な流しそめんが楽しめます。この雨どいを使った流しそめんのやり方は知人に教わりましたが、工夫次第で色々な事が楽しめるかと学ばせてもらいました。皆さんも来年は是非一度試してみてください。

2017年 行事予定

10月現在

10月	18日(水)	秋のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市
	22日(日)	ノクシカタ販売	よかたん	三木市
	24(火)～30(月)	チャリティバザー	高円寺ギャラリーR	東京都
	24(火)～28(土)	ノクシカタ販売	能登演劇堂	七尾市
	28日(土)	チャリティバザー	スーパーニシヤマ三田店	三田市
11月	30日(月)	ノクシカタ販売	アスパ高砂	高砂市
	1日(水)	ノクシカタ販売	住吉大社	大阪市
	3日(金)	チャリティバザー	さいたま市立中尾小学校	さいたま市
	5日(日)	チャリティバザー	三木金物祭り	三木市
	5日(日)	チャリティバザー	であい市門戸厄神	西宮市
	8日(水)	チャリティバザー	垂水駅前東広場	神戸市
	11日(土)	チャリティバザー	和歌山ビッグホエール	和歌山市
	11(土)～12(日)	ノクシカタ販売	福寿堂秀信帝塚山本店	大阪市
	18日(土)	チャリティバザー	JR六甲道南公園	神戸市
	30日(木)	チャリティバザー	アスパ高砂	高砂市

※その他詳しいことは、事務局までお問い合わせ下さい。

国際エンゼル協会は1982年伊丹市において設立され、「世界に愛を」をスローガンに、発展途上国への理解と協力を通して国際間の友好を深めると共に、すべての人々が共存できる平和な世界の実現に寄与することを目的としています。

発行者



特定非営利活動法人

国際エンゼル協会

〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地
TEL.072(784)7504 FAX.072(784)4608
Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>
e-mail ● post@angel-ngo.gr.jp

ANGEL NEWS

通巻181号
2017.10① 特集 学校校舎建設
② 国内ボランティア

ありがとう35周年



ボランティアセンターでの日常

「さようなら」「また明日ね」と自転車を押しながら帰っていく人、「〇〇分の電車で間に合わなくちゃ」と走って帰る人。ボランティアセンターの玄関でのいつもの光景です。

今年で国際エンゼル協会は35周年を迎えました。母、川村百合子と数人で始まったこの会ですが、今では多くのボランティアの方が参加してくださり、長く続けていただいていることに感謝でいっぱいです。先日もチャリティコンサートの時に紹介する『35周年の思い出』のスライド動画を作っていると、あれもこれとも思い出され収まりきれなくなりました。35年間本当に止まることなくいろんなことをしてこられたと驚き、感慨深いものがありました。

バングラデシュからも嬉しい便りが届きます。「エンゼルホームの子ども達が就職しました」「社会で活躍しています」「結婚しました」「子どもが出来て幸せな生活を送っています」等々…。小さい時、貧しく恵まれない家庭で育った子ども達もエンゼルホームに来て人生が変わりました。35年前に蒔かれた小さな種が育ち今美しい花を咲かせています。私達も多くの人と出会い、共に働き、共に笑い豊かな人生を歩んでいると思います。一人ひとりの力は小さいけれど集まれば大きな力になります。

“世界の子ども達に夢と希望と愛を” これからも頑張っていきたいと思います。

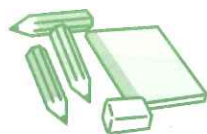
代表理事 東村 眞理子

バングラデシュ学校校舎建設にご協力おねがいします

バングラデシュの田舎の学校校舎現状



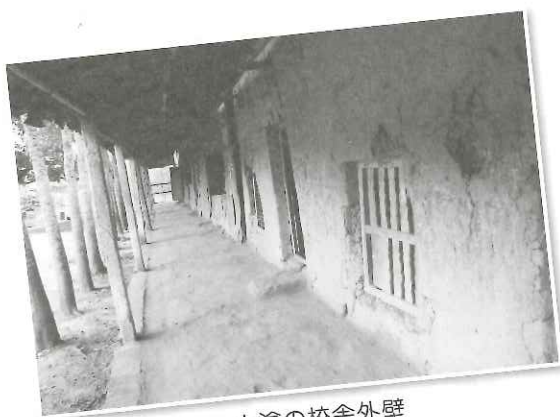
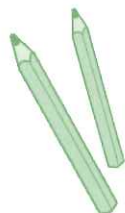
バングラデシュ農村部の学校



バングラデシュの農村部ではまだ土や竹で編んだ学校校舎が多くあります。そのほとんどの学校には電気がなく、子ども達は薄暗い中で勉強をしています。また校舎の数も少ないため、教室はぎゅうぎゅう詰めで座っています。それでも入れない場合は屋外で授業をしたり、学年ごとに午前と午後に分かれて授業をするなどしています。また、トイレの無い学校もたくさんあります。

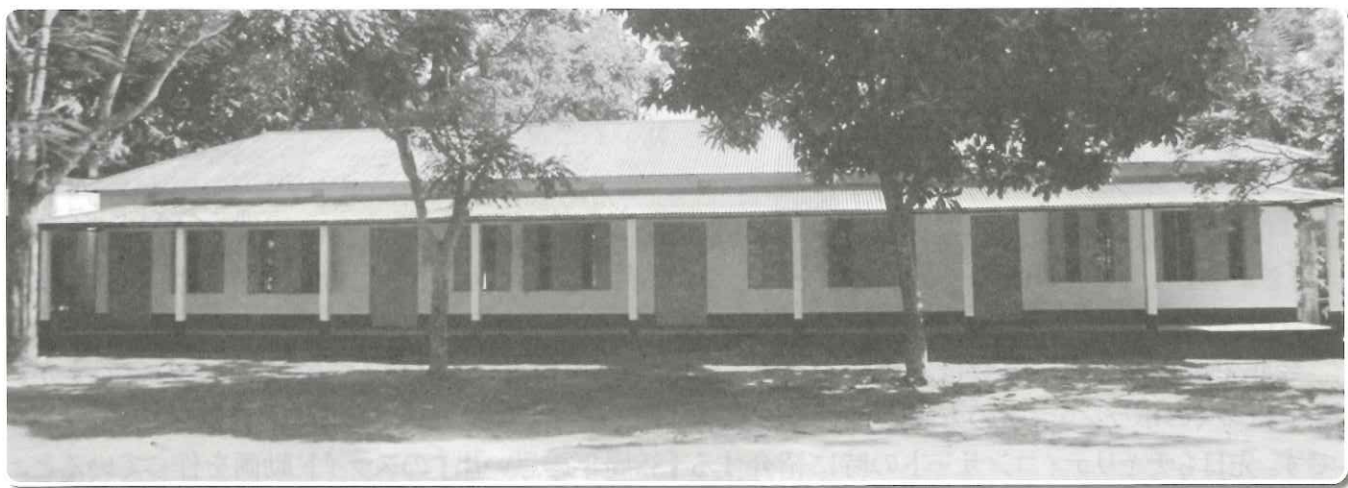


教室内の様子



土塗の校舎外壁

国際エンゼル協会の学校校舎建設支援



新しく建てられた学校校舎

この様な教育環境を改善するために、当協会では学校校舎建設の支援を行っています。皆様のご寄付により今までバングラデシュに67校の学校が建ちました。バングラデシュの未来を担う子ども達のためにも、これからも学校校舎建設支援を続けていきたいと思っています。皆様のご協力をお願いします。



同学校の教室の様子



校舎の横に建てられたトイレ

DCEF だより

奨学生からの便り — バングラデシュ



皆さん、こんにちは。私はモティウル・ロフマンと申します。現在ジャハングルノゴル大学の国際関係学部3年生です。

2013年、父は私が高校生の時に亡くなりました。私は自分のこれからの進路がどうなるか考えると絶望を感じていました。そんな時、幸運にもクラスメイトの1人が私に国際エンゼル協会のことを紹介してくれました。そして、2015年から奨学金をいただけるようになりました。それは大学に進学するかどうか、自分のこれからの進路を決める上でとても重要な出来事でした。

現在、国際エンゼル協会の奨学金支給プログラムがある時は可能な限り参加して、国際エンゼル協会のこと、日本にいる心優しいお母さん方のことについてお話を聞いて学んでいます。

卒業後は警察官になって、私の国の治安維持と平和のために自分の力を注ぎたいと思っています。国際エンゼル協会の支援に大変感謝しています。



モティウル・ロフマン
(ジャハングルノゴル大学3年生)

DCEF (ディセフ)とは…
[Developing Country Educational Fund]

経済的に恵まれない発展途上国の子ども達に教育援助を行う里親制度。奨学資金の供与や学校校舎の建設・設備の充実、農村女性を対象にした識字教室等を行っています。また、バングラデシュ以外に、フィリピン、スリランカなどの子ども達にも支援しています。

No.25

エンゼルホームの子ども紹介 アリファ ちゃん Arifa Akter Meem (15才)



アリファちゃんのお父さんは彼女が4才の時に亡くなり、お母さんが3人の女の子を育てていました。しかし生活が苦しくなり、三女だった彼女はエンゼルホームに預けられることになりました。エンゼルホームの生活にはすぐに慣れ、「勉強が出来てみんなと一緒に遊べるのがとても楽しい」と彼女は言っています。踊りが得意でよくイベントなどでダンスを披露してくれます。また、日本からスタディツアーで訪れた会員の方に教えてもらった縄跳びや折り紙は彼女のお気に入りの遊びとなっています。

月一回の面会日に大好きなお母さんが会いに来てくれる事をとても楽しみにしています。いつも掃除やお手伝いをよく行い、誰に対しても笑顔で挨拶をする礼儀正しい女の子です。現在 YURIKOエンゼルスールの7年生で、将来は銀行員になりたいというアリファちゃん、これからも勉強や大好きなダンスを頑張ってください。



愛は海を越えて 届け! 心のハーモニー ～チャリティコンサート2017～

「バングラデシュに学校を建設しよう」とのスローガンのもと、7月29日(土)アイフォニックホールにてチャリティコンサートが行われました。本協会の活動紹介、混声合唱団「エンゼル」によるコーラスそして「ティンカーベル」によるベル演奏が行われました。会員の家族や友人達も駆けつけてくださり、会場は多くの人でいっぱいになり、終始温かい雰囲気の中コンサートを終えることができました。お越しくださった皆様、応援くださった皆様ありがとうございました。



混声合唱団「エンゼル」

結成10年目になる混声合唱団「エンゼル」の36名が、息の合った美しいハーモニーを会場の皆様に届けました。



バングラデシュのヌスラット・タバススムさんが日本語で司会をしてくださいました。



ベル演奏「ティンカーベル」

チャリティコンサートに参加して

素晴らしい伊丹アイフォニックホールの舞台に6年ぶりに立たせて頂き、満席のお客様から1曲1曲に温かい拍手を頂戴し、ベル演奏で皆様と心通わすコンサートができました事、とても幸せに思っています。体験コーナーでは、沢山の方々がステージに上がってくださって「ふるさと」を完成し、とても盛り上がりました。私も感激でした!また、私達を迎えてくださるエンゼル協会の皆様の温かさ、優しさに接し、まるで故郷にでも帰ってきたかの様な安心感すら覚えしました。そしてコンサート終了後には、沢山の方々が私たちのCDをお買い求め下さいました。バングラの学校建設のお役に少しは立てたでしょうか。

去年は、娘と2人でバングラデシュに行かせて頂き、ベル演奏の楽しさを子供達に伝えてきましたが、いつか、ティンカーベルの生演奏をバングラデシュの皆さんに聞いて頂けたら、と願っています。グループを存続させていくことはなかなか難しく、紆余曲折ありますが、こうして温かい皆様の拍手に支えられ、ベル演奏でご縁を繋いで頂いたことに感謝し、心新たに、頑張っていこうと思っています。

皆様もバングラデシュと日本の懸け橋となり、ますますご発展していけますことをお祈り申し上げ、お礼の言葉に代えさせていただきます。ありがとうございました。

ティンカーベル代表 熊原 幹恵



※ご協力いただいた募金はバングラデシュの学校校舎建設費として役立てさせていただきます。

第四弾 35年 ボランティアあれこれ

一年を通してボランティアの皆さんにインタビューしてきました「35年ボランティアあれこれ」も今回が最終回です。これからもボランティア活動でのたくさんの出会いを楽しみにしています。

ボランティア キャンプ in 茗荷村

2002年～2004年の春と夏に計5回行われた「茗荷村」でのボランティアキャンプ。滋賀県愛東町の山奥にある「茗荷村」という知的障がい者の方々と健常者が自給自足している村で3泊4日のキャンプを行いました。野菜や鶏卵の収穫、ログハウス作り、清掃作業など村の方々と共に楽しく汗を流しました。ある時はキャンプファイヤーの後テントを張って泊まり、夜空の星の美しさに感動!茗荷村では人と人の間に垣根が無く、障がい者と健常者が助け合いながら物やお金に縛られない暮らしがありました。そんな村の人達の生活に触れ、人が生きることの原点を見つめ直す体験が出来ました。

(K・K)



スタディツアー in フィリピン

2002年3月、フィリピンの奨学生を訪ね、一泊で行ったホームステイが今も鮮やかに記憶に甦ってきます。二人一組で、私達はバギオ近郊のロメオ君(14才)の家に行きました。山の斜面に建つ家は水道も無く、トイレは外に出て崖下にトタンで囲っただけというもので本当に驚きました。そこで民族衣装を着せてもらい、私達も日本の歌やハーモニカの演奏を披露しました。また、家族や親戚の方も交えて腕相撲するなど賑やかな交流の夜となりました。今はもう30才になっているロメオ君、大好きな勉強を続けてどんな大人になっているだろうと想像するのも楽しく、忘れられない思い出です。

(T・O)



ボランティア センターの 大掃除

毎年8月になると、センターの内部・外まわりを片付け、畳を上げ、照明器具、エアコン、壁、窓、床まわりを磨きあげます。年二回のバザー、手芸講習会、ボランティアひろば、品物の整理保管にと毎日毎日使わせていただいて、「ありがとうございます」の感謝を込めて。きれいになったら、次は「第68回秋のチャリティバザー」の準備にとりかかります。

(M・K)



ボランティア キャンプ in 真理庵の郷

丹後半島の山深い三山の廃村に「真理庵の郷」(マリアンぼーむ)があります。そこでリチャード神父様が社会で疲れた男の人達と共に畑仕事などしながら、社会復帰へと導かれています。私達はそ

このゲストハウス、祈りの庵の掃除や草刈りに行きました。賑やかなエンゼルメンバーを静かに優しいお顔で見ておられる神父様。

人は言葉ではなく優しい、温かい心に包まれると元気になれるのだと感じました。(M・F)



手芸 ボランティア

2009年10月からスタートした宝塚にある障がい者支援施設での手芸の活動も9年目を迎えました。毎回、約20名の利用者さんが参加されます。押し花、身につける物、飾り物、季節の物等、中には難しい針の作業もありますが、作品が仕上がった時はとても感動して、自慢してくれる人もいます。これからも頑張っていきたいです。(K・H)





～楽しかった夏休みイベント～

8/5 アマゴつかみ体験

子ども達に「ボランティアセンターに行くと楽しい事がある」そして小さな頃からボランティアを身近に感じてもらうよう、当協会夏休み企画第一弾として「アマゴつかみ体験」をしました。生きたアマゴは素早く、めめりもあって、子ども達は思うように捕れず大はしゃぎです。捕った魚は串に刺してみんなで焼いて食べました。参加した子ども達は初めての経験に大喜びでした。



8/20 東条親子交流会

昨年好評だった東条研修センターでの親子交流会、今年の参加者は41名になりました。午前中は親子で「木や枝で昆虫作り」と「貝殻リース作り」を、お昼からは流しそうめんをしました。みんな真剣な表情で互いに熱中しており、どの作品も一人一人の個性が発揮された素晴らしいものとなりました。竹を使った本格的な流しそうめんは都会ではなかなかある機会もなく、大人も子どもも一緒に盛上がりしました。今年もみんなでワイワイ楽しい一日を過ごしました。



連載コラム8

仲島正教の優しい風
～ Loving-wind ～

「あのがいなければ」から 「あのがいってくれたおかげ」



▲教育サポーター 仲島正教

36年前のことです。教師になって4年目、私が初めて1年生を担当した時に、智子（仮名）という女の子がいました。智子は学力は高いのですが、友だちとの関わりが下手で揉め事をよく起こしていました。時には大声を出して教室から飛び出したりもしました。今、思えばこの子は自閉症スペクトラムだったのでしょう。ただでさえ私は初めての1年生担任で戸惑っていたのに、智子に振り回され大変な毎日を送っていました。智子が休んだ日には教室は平穏で私もホッとしていたのです。

そんな智子が3学期になって東京に転校することになりました。電話でその連絡を受け、「お母さん、それは残念です」と話しながら、私は心の中でホッとし、これでやっと平穏で普通のクラスになれるって思ったのです。そうです、智子の転校を喜んでいて私でした。

☆

☆

☆

転校する日、学校にお母さんが挨拶に来られました。

「仲島先生、本当にお世話になりました。智子の指導は大変だったでしょうが、先生はいつも一生懸命に下さり、心より感謝しております。ありがとうございました」と話された瞬間、私の目から大粒の涙がポロポロと流れ出し、「お母さん、すみませんでした」の一言しか出ませんでした。私は心の底から自分を恥じました。自分はなんて酷い教師なんだ。この子がいなくなればいいと思っていた自分が情けなくなり、そして智子と智子のお母さんに申し訳ない気持ちでいっぱいになったのです。

「いいえ、先生は本当に一生懸命に智子のためにして下さいましたよ」

お母さんが言うともた涙が出てしまいました。私はまた

「いえ、本当にすみませんでした」としか言えませんでした。

私が保護者の前で見せた初めての涙でした。

☆

☆

☆

智子の家の引っ越しは、お母さんが挨拶に来られた翌日でした。荷物は車で送り、智子の家族は新幹線で東京に向かいます。

「最後に智子がもう一度学校を見たいというので、新神戸から新幹線に乗りますね」と聞いていました。学校の運動場の向こうには新幹線が走っていますので、私は子どもたちに

「運動場に出て、みんなで智子にさようならをしようよ」と言うので

「先生、何時の新幹線？」と聞くので

「わからないんだよ、でもお昼までの新幹線に乗るって言ってたよ」

「じゃ、給食までずっと手を振ろうよ」

1年2組38人は、朝の8時30分から12時30分まで4時間運動場に出ずっぱりで、新幹線が通るたびに思いっきり手を振りました。

後日、お母さんから手紙が届きました。

「先生、1年2組のお友達、本当にありがとうございました。新幹線から見た最後の学校を智子は一生忘れないと思います。みなさんが大きく手を振っている姿を智子は目を大きく開けてじっと見つめていました。あの子は幸せな子です」

「あのがいなければ」が「あのがいってくれたおかげ」に変わった瞬間でした。私はやっと教師になれました。

※ご好評いただいております連載コラムですが、仲島正教氏のご都合によりこの号をもちましてしばらくお休みします。